

# 私を変えた言葉

教育人間科学部 3年

1455903

趙来鉉

私は韓国の留学生、趙来鉉と申します。現在、教育人間科学部3年であり、日本に住み始め、もう5年目です。最初、私が日本に来る時は、ただ日本が見たかっただけで、ひらかなも知らないし、お金も持ってないまま、日本の生活を始めました。

当時にやり始めたバイトは新聞配達でした。ひらかなも知らない私にぴったりの仕事でした、さらに集金もやったので毎月二百人以上の日本人と話さなければなりませんでしたが、それが日本生活の一つの楽しみでした。学校と仕事で忙しいけれども、唯一、日本人と話せる時間のため、お客さんが話し掛ければ私も積極的になり、2年後には自分もビックリするくらい仲良くなりました。私が大学に合格してここに来る時、いろんなプレゼントをもらいました。さらにお金もくれたお客さんいました。その時はちょっと感動しました。

そこで私は一つの疑問が浮かびました。私に取っては両国の人達はすごくいい人なのに、なぜ戦うのか、なぜ仲良くできないのだろうか。それで本を読んだり、教授にも聞いたり、インターネットで日本語と韓国語で日韓問題を検索したら、両国のメディアはコインの片面のように報道している、自分が有利な報道しかしないから両国の国民は誤解している部分が多いと感じました。それで私は仲良くなった日本人に積極的にそれについて話しましたが、全然効果はありませんでした。相手はあまり興味なさそうだったし、今の問題を理解させるには相当な時間も必要だし、両国の言語を分かなければ十分理解できないからです。

それで私は諦めました。私がいくら話でも自分の力では何も変えられないような無力感に襲われました。

しかし、私はここに立ってスピーチをしています、その理由は、申し訳ないからです。私を救ってくれた日本の方々の顔を見ると、なぜか、その方に申し訳ないと感じました。私はひらかなも知らない、お金も持ってないまま、日本に来て、大学まではいりました。ここまで辿り着くにはいろんな事があり、自分一人の力では不可能でした。ここでスピーチをしているのもありがたい人に対して、私なりの恩返しになれるかも知らないと思うからです。

今回のテーマは私を変えた言葉です。しかし、一言聞いてたった一瞬で、私を変えさせた言葉はありません。ですが私は5年掛けて徐々に変わりました。私は今、みんなに、韓国と仲良くしましようとは言えません、ただ、日本があまり好きではなかった韓国人が、日本に来たから5年掛けて、仲良くしたいと思うようになった事を分かってほしだけです。いつが日本と韓国が一緒に笑える日が来るのを願います。

最後まで聞いてくれてありがとうございました。